

2022年2月13日（日）メッセージアウトライン 「義の実を結ばせる種を蒔く」

聖書箇所：ヤコブの手紙3：13～18

タイトル：「義の実を結ばせる種を蒔く」

テーマ：「あなた方のうちで、知恵があり分別のある人はだれでしょうか」とヤコブは問い、かけ、クリスチャンを自認する者が自らの知恵や分別を点検するよう迫っています。

ヤコブが語る知恵は「上から来た知恵」と「地上の知恵」の二つに区別され、それをきちんと識別して、「上からの知恵」によって結ばれる「義の実」の種を蒔く者となるよう招いています。「義」とは何？、「義の実」とは何でしょう？

二つの知恵を比較し、それぞれの知恵がもたらす結果を見ることによって、私たちの歩みがどの知恵によって導かれているのか、「義の実」の種を蒔く者になっているかを吟味してみましょう。

1. 知恵と分別（13節）

①舌を制御するためには正しい知恵と分別が必要

*知恵（ソフォス）ギリシア語では賢いとか、学問があるという意味

*ヘブル語を背景として理解される「知恵」は、神の意志と目的への洞察を基礎として日常生活の一つ一つの事柄に対して正しく的確に判断を下して行動する応用力を含む（神の御心を理解して、日常生活に適用するという具体性を持っている）

・参照：マタイ12：42、ローマ11：33

*分別（エピステーモン）ギリシア語：知っている

②ヤコブの真意

自らを教師とか、知恵があるとか、律法を知っていると思いがっているユダヤ人の律法学者やパリサイ人への、ヤコブの牽制球

2. 地上の知恵

①教師になりたがっている人の現実の姿（14節）

*苦々しいねたみ（賜物に優劣をつけたる）や利己的な思いが心の中にある

*その結果、自慢したり、真理に逆らって偽ったりする

②彼らの知恵は地上のもの

*上から来たものではない。

・過ぎ去っていく時代の支配者の知恵（Iコリ2：6）

・神の前では愚かな知恵（Iコリ3：18～21）

・人間を誇る

*肉的で悪魔的なもの

- ・サタンの願い——人間をイエス・キリストから引き離して、自分たちと同じ永遠の滅びに追いやること
- ・「ねたみや利己的な思いのあるところには、秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行いがあるからです。」(16節)

3. 上からの知恵(義の実を結ばせる種) 17節、18節

- ①清い(汚れがなく純真)
- ②平和で優しく協調性がある
- ③あわれみと良い実に満ち

*「あなたがたの父があわれみ深いように、あなたがたも、あわれみ深くなりなさい。」
(ルカ6:36)

ここで結ばれる良い実とは聖霊の実です。

「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。」(ガラテヤ5:22, 23)

- ④偏見がなく、偽善もない

*偏見——他者を外見で判断し、差別する心

*偽善——口で語ることと行いが一致しない。

- ⑤義の実を結ばせる種を蒔くとは？

*「義」とは何ですか——神のご性質の中で最も重要なもの。「義」と「愛」こそ聖書の神の特性。「義」とは罪を一度も犯したことがないという意味。神の前で人間は全員罪あり。罪ある者には永遠の死が待つだけ。神はその人間を愛して、永遠の刑罰から人間を救うために救い主イエス様を遣わされた。イエス様を信じる者を「義」(一度も罪を犯したことがない者)と認め、義の実を結ぶ者とされた。

4. 結論

イエス・キリストを信じる信仰によって、上からの知恵をいただくことができるようになった私たちは、今、どの知恵に導かれて生きているだろうか。私たちの心を改めて点検してみよう。

上から来る知恵、神が与えてくださる知恵こそ、義の実を結ばせる種となる。上から来る知恵は、人間の力ではどんなに頑張っても神の聖さ(義)に到達できないことを自覚させ、人々をキリストに導く。私たちの思いと行いが神の御心に一致していく時、私たちは義の実を結ぶ者となる。そこにできた義の種は他の人々をもキリストのもとに導く種となり、新たな義の種をいただいた人が、次に義の実を結び、その義の種を蒔く者とされる。

私たちが神との間の平和な関係を取り戻すことができるようにと、神ご自身が神の御子イエス様を救い主として送ってくださったことを絶えず思い起こそう。神こそ私たちに上からの知恵を与え、キリストこそ人を救いに導く唯一の道であると教えてくれる。